

入選

水の再利用へ

小矢部市立津沢中学校 二年 沼田 実莉

私たちの住む富山県は年間降水量が二〇九八㎜で日本では、六位という降水量の多い県である。水を必要とするときは、苦勞もせずに使いたい分の水を使用することができて、とてもありがたい生活をおくることができている。

しかし、同じ富山県でも昔からこのような生活をおくっていたわけではない。昔の人々は、生活に必要な水を得るためには、苦勞して、現在のようにじゃ口をひねれば水が出てこない生活だった。また、水による被害にもたくさんあった。富山県の川は急流で洪水の被害にあっていたため、富山県の川の一つである常願寺川は、日本一のあばれ川と呼ばれていたそうだ。

そこで私は、今の人々は水の大切さを忘れていると思う。今の時代でも水を得られず、生活に困っている人もたくさんいる。それなのに、「節約」をする人が少ないので、今の私たちにもできる節約の方法を調べた。

実際、私も前まではシャワーを出しっぱなしにしたり、必要以上の水を使っていることに気づき、節約することを心がけた。例えば、はみがきはコップにくんだ水で行うと、一日約5Lの節約になるうえに洗車はバケツにくんだ水を使用すると約六〇Lの節約になる。また、おふろの残りのお湯を、洗たくに使うことで約二〇〇Lも節約することができ。しかし、おふろの残りのお湯を使うことになるので、「少しきたくない」というふうに思う人もいるかもしれないが、実は新しい水を使って洗たくするよりも、お湯を使ったほうが汚れがおちやすくなるのだ。その理由は、お湯のほうが温度がたかくて、せんざいがとけやすくなるためだと考えられる。

このような例はじゃ口から出ている水の節約だ。そこで、私は雨水を利用できないかと考えた。例えば雨もりをしているときは、バケツ

などを置いてためておく。その雨水を、飲む水や、料理に使うのは少し抵抗がある。そして、何かちがうものに使えるか考えたとき、私は小学生でも、中学生でも使用する、「習字の筆を洗うときに使える。」と思った。この使い方についてふかく考えてみると、普段たくさん水を使用していることに気づいた。筆はすみがとても落ちにくくてたくさん水を使っている。だから雨水を利用し、バケツにためた水で洗うと、節約できると思った。また、ためた雨水で植物の水やりにも利用することができる。雨水は塩素を含まないので、水道水よりも植物にとつて良い影響を与え、というメリットもある。他にも、暑さ対策に打ち水として使用するなど、たくさんさんの再利用する方法がある。

このように、私たちが当たり前のように使用していた水を、少し節約することで、一日の水の使用量の変化に大きく関係すると思われる。そして、雨水を再利用することで、水を節約することができるという他にも、植物には良い影響を与えるなどというメリットもある。一人一人の水に対する気持ちを変えるには、まずは、私自身から動かなければいけないと思う。だから、一日の生活を一度、見直して水の節約に心がけたいと思う。